

平成三十年度福岡県農業大学校入学試験問題

* 解答はすべて解答用紙に記入すること

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

現在、家族の崩壊ということがよく言われます。A 家族という形態が、ひよつとすると現代の社会に合致しなくなってきたのではないかと。そんなふうにも思えます。B 家族は、人間性の要とも言える部分。また、C 人間社会の根幹をなす集団の単位です。そこに変化が起き始めていることについて、私たちはどう考えればよいのでしょうか。

改めて家族というものを定義してみると、それは「食事をともにするものたち」と言うことができます。どんな動物にとっても、食べることは最重要課題です。いつどこで何を誰とどのように食べるか、ということは非常に重要な問題です。

あ 霊長類の場合、なかでも「誰と食べるか」が大事なのです。ともに食べるものをどう選ぶか、その選び方で社会が作られていくからです。

人類の場合は、食を分け合う相手は基本的には家族です。何百万年もの間、人類は家族と食をともにしてきました。家族だから食を分かち合うし、分かち合うから家族なのです。しかし、その習慣は今や崩れかけていると言えます。

ファストフード店やコンビニエンスストアに行けば、いつでも個人で食事がとれてしまいます。家族で食べ物を分かち合わなくても、個人の欲望を満たす手段はいくらでもあります。家族でともに食卓を囲む必要性は薄れ、個人個人がそれぞれ好きなものを好きなときに食べればよい時代になっています。この状態は、人類がこれほどまで進化したことの負の側面とも言えるでしょう。

コミュニケーションとしてあつたはずの「共食」の習慣は消え、「個食」にとつて代わられつつある。食卓が消えれば、家族は崩壊します。人間性を形づくってきたものは家族なのですから、家族の崩壊は、人間性の喪失だと私は思います。そして、家族が崩壊すれば、家族同士が協力し合う共同体も消滅していかざるを得ません。

もちろん、家族やコミュニテイという形態そのものが今すぐに消えてなくなるわけではありません。政治的な単位、あるいはD 経済的な単位としては、今後も長く残り続けると予想できるからです。

では、家族が崩壊してしまつたら、人間はどう変化していくのでしょうか。

そうならば、E 人間社会はサル社会にそつくりなかたちに変わつていくでしょう。そしてその変化は、もうすでに始まっていると私は感じています。

サルの社会は、個体の欲求を優先します。個体にとつての利益とは、「なるべく栄養価の高いものを食べること」と「安全であること」です。

サルは群れの中で序列を作り、全員でルールに従うことで、個体の利益を最大化しています。自分より強いサルの前では決して食べ物に手を出さないのは、食べ物をめぐるとラブルを未然に防ぐためです。あらかじめ勝ち負けを決めておき、勝つたほうが食べ物を独占するのです。

それでは負けたほうはえらく不利益を①被るのではないかと思えるでしょうが、そんなことはありません。サルの食べ物ほとんどが植物で、わりあい手に入りやすいものばかり。い わざわざ争わないでも、どうにかなる。弱いものにしてみても、食べ物をめぐつて②ムダに争うよりは、③エンリョしたほうが結局は得だという知恵があるのです。

これは非常に経済的なシステムです。④ゼツタイ的な序列の中にいるから、効率がいい。サルが群れているのは、集まつていた方が得だからにすぎません。その証拠に、サルは群れから一度離れば、その集団に対する⑤アイチャクを示すことは一切ありません。

サルとは違つて、人間は自分の家族やコミュニテイを愛し、⑥シバられて生きていくものです。そ

れが人間の一つの根源的なアイデンティティだと私は考えています。う、家族が崩壊すれば、自分がどの家族の出身であるか、あるいは自分どのコミュニティに⑦シヨヅクするかということ、もはや人はアイデンティティとして必要としないでしょう。

家族というものは確かに、個人にとって足かせとなる存在ではあります。ときには血のつながりが⑧シヤマに思えることもあるでしょう。家族のしがらみが自分の行動を⑨セイゲンし、⑩嫌な思いをすることもあつてよいでしょう。

しかし、家族という集団は、足かせと引き換えに、喜びや満足をくれるものでもあります。家族を失った現代の人間は、個人として意思決定を自由にできるようになりつつありますが、それは本当に幸せなのでしょうか。

出典 山極寿一 『「サル化」する人間社会』より

問一 傍線部①く⑩のカタカナを漢字に改め、漢字はその読みを答えよ。

問二 空欄あくうに入れるのに最も適当な語を次の中から一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号は一度しか使えない。

ア 何よりも イ だから ウ そして エ しかし オ なぜなら

問三 二重傍線部A「家族という形態が、ひよつとすると現代の社会に合致しなくなつてきているのではないか」とあるが、どうしてそう思うのか。その理由として次の説明文の空欄に入る最も適当な語を文中から抜き出して答えよ。

《説明文》コミュニケーションの役割を持つ習慣としてあつた「ア」が消え、「イ」に代つて代われつつあるから。

問四 二重傍線部B「家族は、人間性の要とも言える」とあるが、どうしてそう言えるか。その理由として最も適当な部分を「くだから」に続くように十六字で抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

問五 二重傍線部C「人間社会の根幹をなす集団の単位」とあるが、どうしてそう言えるか。その理由として最も適当な部分を「人間社会はくことで成り立つから」の間にうまく入るように十字で文中から抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

問六 二重傍線部D「経済的な単位」とあるが、そのような観点から言えば「家族」とはどのようなものか。十二字で文中から抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

問七 二重傍線部E「人間社会はサル社会にそつくりなかたちになつていくでしょう」とあるが、サルの社会で優先されるものに対して人間社会で優先されるものは何か、文中からそれに該当する語句を十字以内で抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

問八 本文で作者は、人間の家族の崩壊を招く究極の要因は何であると主張しているか。それに該当する語句を一つだけ五文字で抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

第二問 次の文章は、安岡章太郎の小説「海辺の光景」の一節である。これを読んで後の問いに答えよ。

《ここまでのあらすじ》故郷の精神病院に入院している母が危篤になつたと知らせがあつたので、主人公の信太郎は急いで帰郷し、その病院の、母とは別の部屋に一泊して朝を迎えた。

九時少し前に医者がやつてきた。ノックされたドアの前に聴診器を持った男が立っているのを見て、信太郎はだしぬけに、

「いよいよダメですか」と訊いた。

医者は、とまどつた様子だつた。Aそれから急に笑いだした。

「いやダメも何も、これから診察に行くところですよ。いつしよに来んですか」

彼は、きのう①ゼンニンシヤと交替して、この病院へかえってきたばかりだと云った。医者は高知市にある本院から半年交替でまわってくるのだった。B信太郎はこの男が好きになれそうな気がした。浅黒い顔に笑いをうかべるとき真白い前歯が二本、乾いた②クチビルをかみしめる、その表情が淡泊で率直な性格を想像させた。

医者は廊下を足早に歩いた。長身にまとった白い診察衣をひるがえしながら、立ち止って挨拶する患者に、短く、「おう、まだいたか」と声をかけたり、肩を叩いてやつたりした。そんな態度はC運動部のキャプテンをつとめる学生をおもわせた。この男の机の前には「威アツテ猛カラズ」といつた③ヒヨウゴが貼りつけてありそうだ――。炊事場のまえに集っていた患者たちが、とおくから彼の姿を発見するとパツと散るのを見ながら、信太郎はそう思った。

炊事場の横を曲ると、行手に淡いみどり色に塗られた鉄の扉が見える。そこからさきが重症病棟である。④頸にホウタイを巻いた白い半ズボンの男が、肩で押しながら扉をあけた。きのうの甘酸っぱい臭いが、炊事場からただよってくる漬物の臭いにかわって、重苦しく軀のまわりを押し包むようにやってきた。廊下は急に暗く細くなり、鉄格子のはまつた両側の小窓から、いくつもの顔がこちらを向いた。D信太郎は一步歩くたびに、体じゅうの関節がダルくゆるみはしめるような気がした。素裸で何か口ずさみながら部屋の中を歩きまわっている小肥りの若い女、壁に向ってお辞儀をくりかえしている色の黒い男、床に体をなげだして本を読む老人、足音が近づくと彼等は窓の⑤格子に飛びつくのだ。壁の色を反映した光線の加減が、一様に青ざめた爬虫類に見られるような顔つきだった。

母は昨日と同じく、口をあけたまま睡っていた。刈り上げた白毛の頭髮が、毀れた泥人形のように、つやを失った額や頬にかかっている。

医者の診察は予想したとおり、きわめて事務的なものだった。看護人のもってきたカルテに眼を落すと、患者の胸をあけさせて二三度、軽く⑥聴診器を当てただけで立ち上った。

「熱は」

「三十九度一分でした」

「プルスが九十二、か……。そのほか別に変ったことはないな？」

「昨夜、見舞いの方が来られるまえにビタ・カンを一本うちました」

看護人とそんな簡単なやりとりのあとで医者は信太郎の方をふり向くと、⑦ビシヨウしながら「東京から来られると、こちらは暑いでしょう」と云った。ひとなつつこい笑いだった。信太郎は首を振って、それほどにも感じない、どこたえたが、そのまま出て行こうとする医者ともう少し話をしたい気持で、母のかかった老耄性痴呆症とは、どんな病気を訊いてみた。Eこの男ならザツクベラんな話をきかせてくれるかもしれない。

「さア、われわれにも良くは、わからんですな」医者は腰に手をあてて、長身の体軀をそらせるように云った。「とにかく戦後、増えましたな、こういう病人が……」

身体の各部は⑧ケンゼンなのに、脳⑨サイボウだけが老衰する。医学が発達して人間の⑩ジヨミヨウウがのびるにしたがつて、この種の患者が多くなった。現在ではアメリカでもっとも多く見られる病例である。と、そんなことを話した。信太郎は、いくらか失望した。彼は、運動競技のルールのごとくに明快に具体的な説明がきけるものと期待していた。そのような説明をあたえられれば、自分のいまおかれた位置ももつと架空で抽象的なものに変りはしないかと思ったからだ。

出典 安岡章太郎「海辺の光景」より

(注)「ビタ・カン」……古くからある強心剤の注射のこと

問一 傍線部①と⑩のカタカナを漢字に改め、漢字はその読みを答えよ。

問二 二重傍線部Aで「それから急に笑いだした」のはなぜか。次の解答文の空欄に入れるのに最も適当な四字の語を文中から抜き出して答えよ。

【解答文】 主人公の医者への問いかけがあまりにも「」だったから。

問三 二重傍線部B「信太郎はこの男が好きになれそうな気がした」のはなぜか。その理由として「」

から」に続くように文中から二十字以内で最も適当なところを抜き出して答えよ。

問四 二重傍線部C「運動部のキャプテンをつとめる学生をおもわせた」のは、医者が示したどのような態度や行動からか、本文に即して三つ答えよ。

問五 二重傍線部Dの比喩的表現について、次の問いに答えよ。

- 1 これは主人公のどのような気持ちを述べたものか、それに最も近いものを次から一つ選び、記号で答えよ。
- ア 人間であることを拒絶し爬虫類にでも変化していくような気持ち
 - イ あまりの絶望感にうちひしがれて全身から力が抜けていくような気持ち
 - ウ 人間として生きていく上で大切なものを失って心の中に穴があいたような気持ち
 - エ 現実から離れ確かな存在としての自分ではないものに変化していくような気持ち
- 2 これと似た意味のことを述べている三十六字の部分を本文中から見つけ出し、その最初と最後の五文字ずつを抜き出して答えよ。なお、三十六字には句読点は含まれていない。

問六 二重傍線部Eと同じような内容のことを述べている三十五字以内の部分を文中から見つけ出してその最初と最後の五字ずつを抜き出して答えよ。字数に句読点は含まない。

第三問 次の各問に答えよ。

問一 次の文学作品の作者名を後の語群から選んで、記号で答えよ。

- ① 智恵子抄 ② 土 ③ 万延元年のフットボール ④ 暗夜行路

【語群】

- ア 大江健三郎 イ 高村光太郎 ウ 志賀直哉 エ 菊池寛 オ 長塚節

問二 次の四字熟語の空欄⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩に入れる漢字一字をそれぞれ答えよ。

- 一 (⑤) 不 (⑥) ……一つのことに集中して、気を散らさないこと。
我 (⑦) 引 (⑧) ……自分の都合のいいようにつじつまを合わせること。
言 (⑨) 道 (⑩) ……もつてのほかであること。あまりひどくて言いようがないこと。

第四問 次の文中の傍線部のカタカナを、それぞれの文意にふさわしい漢字に改めよ。

- 1 { ① 一つの例をアげる。
② 天ぶらをアげる。
- 2 { ③ 論理的なアヤマリを発見する。
④ 被害者にアヤマリを入れる。
- 3 { ⑤ 奴隷をカイホウする。
⑥ けが人をカイホウする。
- 4 { ⑦ アタタかい料理を食べる。
⑧ アタタかい毛布にくるまる。
- 5 { ⑨ 有名なカイトウの小説を読む。
⑩ 早めにカイトウして食べてください。